

Economic Indicators

発表日: 2024 年 12 月 13 日(金)

日本経済指標: 来週の予測と今週の振り返り

～来週は「全国 CPI」「貿易統計」などに注目～

(株)第一生命経済研究所 経済調査部
日本経済短期チーム (Tel: 03-5221-4525)

○来週 (12 月 16 日～12 月 20 日) の主な指標予測

	指 標 名	当社予測	市場予測	前回結果
12 月 16 日 (月)	8:50 10 月機械受注統計 船電除く民需(前月比)	+0.7%	+1.2%	▲0.7%
	8:50 11 月短観業種別計数及び調査全容			
	13:30 10 月第 3 次産業活動指数 (前月比)	▲0.1%	—	▲0.2%
	13:30 10 月商業動態統計・確報 小売業販売額(前年比)	—	—	+1.6%
12 月 18 日 (水)	8:50 11 月貿易統計 輸出金額(前年比)	+5.4%	+2.8%	+3.1%
	輸入金額(前年比)	+2.8%	+1.0%	+0.4%
	貿易収支(原数値、億円)	▲6,074	▲6,898	▲4,621
	8:50 7-9 月期資金循環統計 金融政策決定会合(～19 日)			
12 月 19 日 (木)	日銀総裁定例記者会見			
12 月 20 日 (金)	8:30 11 月消費者物価指数(全国) 全国総合(前年比)	+2.9%	+2.9%	+2.3%
	全国コア(前年比)	+2.7%	+2.6%	+2.3%
	14:00 11 月コンビニエンスストア統計 既存店ベース売上高(前年比)	—	—	+1.7%

(注) 市場予測は Bloomberg、日経 QUICK 調査をベースに作成

10 月機械受注・船舶電力除く民需 当社予想: 前月比+0.7% 中央値: 同+1.2%

10 月の機械受注(船舶電力除く民需)は前月比+0.7%と、4 か月ぶりの増加を予想する。製造業でこれまでの減少からの反動増が出るとみるが、世界経済の下押しを受け生産や輸出も鈍い動きが続く中、機械投資も低調な推移が続いた可能性が高い。(副主任エコノミスト: 大柴 千智)

11 月貿易統計・貿易収支額(原数値) 当社予想: ▲6,074 億円 中央値: ▲6,898 億円

11 月の貿易収支を▲7,541 億の赤字(季節調整値)と予想する。11 月は為替相場が円安傾向にあったことから価格ベースでの押し上げが見込まれる中、数量ベースではこれまで好調だったアジア向け半導体輸出にも減速感があり、輸出は低調に推移した可能性が高い。11 月は貿易赤字の拡大が見込まれる。(副主任エコノミスト: 大柴 千智)



11 月全国消費者物価指数（生鮮食品除く総合） 当社予想：前年比+2.7% 中央値：同+2.6%

CPI コアは前年比+2.7%と、前月の+2.3%から上昇率が大きく拡大すると予想する。11 月請求分から電気・ガス代補助金の補助率が縮小されたことでエネルギー価格のプラス寄与が大きく拡大することに加え、食料品価格の上昇が押し上げ要因になるだろう。（シニアエグゼクティブエコノミスト：新家 義貴）

○今週（12 月 9 日～12 月 13 日）の振り返り

	指 標 名	当社予測	市場予測	前回結果
12 月 9 日 (月)	8:50 7-9 月期 GDP2 次速報			
	実質 GDP 成長率(前期比)	+0.3%	+0.2%	+0.2%
	(同年率)	+1.2%	+0.9%	+0.9%
	名目 GDP 成長率(前期比)	+0.5%	+0.5%	+0.5%
	GDP デフレーター(前年比)	+2.4%	+2.5%	+2.5%
	8:50 10 月国際収支統計			
	経常収支(原数値、億円)	+24,569	+23,180	+17,171
	14:00 11 月景気ウォッチャー調査			
	現状判断 DI(季節調整値)	49.4pt	—	47.5pt
	先行き判断 DI(季節調整値)	49.4pt	—	48.3pt
12 月 10 日 (火)	8:50 11 月マネーストック			
	M2(前年比)	+1.2%	+1.2%	+1.2%
	M3(前年比)	+0.7%	+0.7%	+0.7%
	広義流動性(前年比)	+3.2%	+3.2%	+3.2%
12 月 11 日 (水)	8:50 11 月企業物価指数			
	(前年比)	+3.7%	+3.4%	+3.4%
12 月 13 日 (金)	8:50 11 月日銀短観			
	業況判断 DI・大企業製造業(最近)	+14	+13	+13
	(先行き)	+13	+12	+14
	大企業非製造業(最近)	+33	+32	+34
	(先行き)	+28	+30	+28

7-9 月期 GDP 2 次速報・実質 GDP 成長率

実質 GDP 成長率は前期比年率+1.2%（前期比+0.0%）と、1 次速報の前期比年率+0.9%（前期比+0.2%）から小幅上方修正された。全体の修正幅も小さく、景気認識に修正をもたらす結果ではない。7-9 月期は個人消費が牽引役となったが、一時的な押し上げ要因が大きく、持続性には疑問が残るところ。消費以外については強さは感じられず、景気回復感には乏しい状況である。

- 詳細は、12/9 発表「2024 年 7-9 月期 GDP(2 次速報値)～小幅上方修正も、大勢に影響なし。先行きは緩やかな持ち直しを予想も、加速感はず～(<https://www.dlri.co.jp/report/macro/396345.html>)」もご参照ください。

11 月企業物価指数・国内企業物価

国内企業物価は前年比+3.7%となった。11 月は国際市況が軟化していた非鉄金属などが押し下げに

寄与したものの、政府による補助金の縮小により電気・ガス代のプラス寄与が拡大したことで、前月分から上昇率は+0.1%pt の拡大となった。また、前回 10 月分の数値が上方修正されたことを受け、国内企業物価は市場予想を上回り、3%台後半での高い推移となった。

- 詳細は、12/11 発表「企業物価指数(2024 年 11 月)～先行きは政策要因の攪乱に注意～(<https://www.dlri.co.jp/report/macro/396457.html>)」もご参照ください。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

